

第 3 分 科 会

会場 名古屋クラウンホテル
6階 「袖1」

分科会テーマ

「連携でつくる運動部活動」

研究発表

- ◆ 星 慎太郎 群馬県中学校体育連盟 研究員
邑楽町立邑楽中学校

「持続可能な部活動の環境整備に向けて」
～教員が主体となって関わる地域クラブ活動～

- ◆ 鵜野 敬二郎 兵庫県中学校体育連盟 理事長
兵庫県教育委員会 主任指導主事兼主幹
(部活動改革担当)

「兵庫県部活動地域展開等における連携」
～部活動地域展開等における課題解決にむけて～

紙上発表

- ◆ 水谷 悠貴 三重県中学校体育連盟 研究部長 (常務理事)
鈴鹿市立平田野中学校

「運動部活動の現状と今後の課題」
～地域移行 (展開) の現状とその課題について～

指導助言者	(公)日本中学校体育連盟	副会	会	長	阿	武	正	俊
	三重県中学校体育連盟	会		長	奥	山	真	司
司 会 者	三重県中学校体育連盟	副会	会	長	野	村	知	広
運営責任者	愛知大会実行委員会	運	会	部	高	堀	文	男
運 営	愛知大会実行委員会	運	会	部	三	品	慶	祐
	愛知大会実行委員会	運	会	部	森	田	晃	司
記 録 者	愛知大会実行委員会	編	集	部	中	西	裕	也
	愛知大会実行委員会	編	集	部	杉	浦	直	樹

持続可能な部活動の環境整備に向けて

～教員が主体となって関わる地域クラブ活動～

群馬県中学校体育連盟 研究員

邑楽町立邑楽中学校 星 慎太郎

<提案趣旨>

群馬県では、部活動の地域展開に向けて、地域クラブ活動の参入や生徒数・部員数の減少に伴う合同部活動が増え、拠点校部活動を始める動きも出てきている。また、令和6年度から群馬県中学校体育連盟（以下県中体連）主催大会で、春季大会を廃止し総合体育大会の会期を広げた。今後も地域クラブ活動の参加者数の増加が想定され、会期の検討がされる予定である。県中体連や、先駆的に取り組んでいる郡市の中体連で活発な動きがみられる中、邑楽町では、地域連携や合同部活動、拠点校部活動の整備について、現在、話合いが進められている。部活動の地域展開に向けて、学校と市町村が環境整備を進めることが重要である。また、教員自身が主体的に地域クラブ活動と連携することや、地域展開を目指した地域クラブ活動の環境整備に関わることは、持続可能な部活動の環境整備にも有効ではないだろうか。この仮説を踏まえ、本研究では、教員が主体となって関わる地域クラブ活動について取り上げ、今後の部活動と地域の関わり方について考察していきたいと考える。

1 はじめに

(1) 群馬県と群馬県中体連の現状

部活動の地域展開にむけて、地域クラブ活動の参入や生徒数・部員数の減少に伴う合同部活動が増え、拠点校部活動を始める動きが出てきている。また、令和6年度から県中体連主催大会で、春季大会を廃止し総合体育大会の会期を広げた。今後も地域クラブ活動の参加者数の増加が想定され、会期の検討がされる予定である。県中体連や、先駆的に取り組んでいる郡市の中体連では、地域人材バンクの設置や休日における部活動の見直しなど活発な動きが見られる。一方で、地域展開の環境整備等が進んでいない郡市もみられる。

(2) 邑楽郡中体連の現状

邑楽郡中体連には、邑楽町・大泉町・千代田町・明和町・板倉町に設置されている8つの中学校が所属している。郡内では、拠点校部活動を設置したり、部活動検討委員会を設置したりと、今後に向けて話合いが進められている。

(3) 邑楽町の取組

邑楽町は中学校が2校あり、邑楽中学校に12種目、邑楽南中学校に7種目の部活動が設置されている。両校とも生徒数の減少傾向が見られ、職員数が限られる中、部活動数の見直しが進められている。現在、町は部活動検討委員会を設置し、休日における部活動の地域展開や、拠点校部活動の整備に向けた話合いを進めている。令和5年度より、10月の第1日曜日に「おうらスポーツフェスティバル」という町共催行事を開催し、その開催日は町内2校ともに部活動を休みとし、生徒が行事に参加できるようにしている。

(4) 邑楽町の陸上競技の現状

本研究の研究員は陸上競技を専門としており、現在は陸上競技部の顧問を務める。そのため、まず町内の

陸上競技の環境を確認した。令和6年の段階では、以下の通りであった。

- ・町を拠点とする陸上競技の地域クラブ活動は存在しない。
- ・邑楽町「おうらスポーツフェスティバル」でリレーを実施。
- ・小学校は、毎年10月に開催される小学校陸上競技記録会に向け、学校での練習に取り組んでいる。
- ・中学校は、邑楽中学校にのみ陸上競技部がある。

上記(1)～(4)の現状を踏まえ、持続可能な部活動の環境整備について考察することとした。邑楽町と町内中学校2校は、部活動検討委員会を設置し、拠点校部活動や地域人材の発掘など、部活動の地域展開に向けて話し合いを続けている。話し合いの進展を待つだけでなく、教員自身が主体的に環境整備に関わることで、持続可能な部活動の環境整備に有効となるのではないかと考え研究を進めた。

2 教員が主体となって関わる地域クラブ活動について

(1) 既存の地域クラブ活動との連携

部活動改革に伴い一部改訂された学習指導要領解説（総則編及び保健体育編の一部）を踏まえ、邑楽中陸上部は地域クラブ活動と連携をしている。中学校学習指導要領（平成29年告示）総則編に、「第3章 教育課程の編成及び実施 第5節学校運営上の留意事項1③イ 学校と地域クラブ活動との連携等」の内容が新設され、次のように示されている。

- ・学校と地域クラブ活動の運営団体・実施主体との間で、活動方針や活動状況、スケジュール等の共通理解を図り、学校を含めた地域全体で生徒の望ましい成長を保障することが必要である。
- ・指導の一貫性を確保する観点から、生徒の活動状況に関する情報提供等を行い、緊密な連携を図ることが必要である。

本校の陸上競技部に所属する部員のなかで、近隣都市の地域クラブ活動に所属し練習をしている生徒がいることを把握し、各クラブ活動と連携をすることで生徒のよりよい活動につなげようと考えた。以下2つの地域クラブ活動の監督と連絡を取り合い、連携を図っている。

・「おおたスポーツ学校」との連携

群馬県太田市が運営する総合型地域スポーツクラブであり、様々な種目の中に陸上競技のコースがある。本校部員は部活動の練習に加えて、主に水曜日の夜間と土曜日の午前中にクラブの練習に参加している。

・「Leap Running Club」との連携

栃木県足利市等で活動をする陸上競技の地域クラブである。本校部員は部活動の練習に加えて、土曜日の午後にクラブの練習に参加している。

所属生徒の記録、メニューについて監督・顧問で日々情報交換を行い、生徒の目標達成に向けて共同で計画を立てている。次年度以降に入部を希望する小学生が所属しており、顧問から部活動の情報提供をして入部に備えている。

この活動により、部員に対する理解が深まり、指導がしやすくなる効果を感じた。また、部員にとっても、部活動と地域クラブ活動が同一歩調で声かけができるため「安心して活動に参加できるようになった」

「練習量をコントロールしてくれるので、けががなくなった」などの反応があった。

(2) 地域クラブ活動の足がかりとなる活動

邑楽町に陸上競技を根付かせ、持続可能な部活動とするためには、近隣市町だけではなく邑楽町に地域クラブ活動があり、身近なものとして存在することが有効ではないかと考える。邑楽町小学校勤務に伴い、地域クラブ活動の足がかりとなることを目指し、個人的に希望者を対象とした「星塾」という個別指導をボランティアで始めた。その中で得た繋がりを活かし、徐々に対象を拡大し、令和7年1月から「邑楽陸上競技倶楽部（以下、邑楽倶楽部）」に名称を変え引き続きボランティアで指導している。

～2013	実業団・民間企業時代
2014	千葉県小学校勤務 大学生への定期的コーチング
2015	千葉県小学校勤務 大学生への定期的コーチング
2016	群馬県小学校勤務 おおたスポーツ学校 講師
2017	前橋市中学校 陸上競技部 顧問
2018	前橋市中学校 陸上競技部 顧問
2019	前橋市中学校 陸上競技部 顧問
2020	邑楽町小学校異動にともない 星塾 不定期で開始
2021	邑楽町小学校勤務 星塾 不定期開催
2022	邑楽南中学校 他種目の顧問 星塾 不定期開催
2023	邑楽南中学校 他種目の顧問 星塾 不定期開催
2024	邑楽中学校 陸上競技部 顧問 星塾の定期開催へ
2025	邑楽中学校 陸上競技部 顧問 星塾→邑楽倶楽部へ

邑楽倶楽部 誕生までの道のり



邑楽倶楽部 案内

地域クラブ活動が存在すると、学校の部活動から町全体へと活動が広がり、学校・地域・保護者が協働することで、生徒の充実した活動機会が保障できる。また、多くの指導者が地域クラブ活動に関わり支えていく体制が構築できると、顧問の働き方改革や、様々な世代が関わり合いながら運動できる環境の整備につながるのではないかと考える。一方で、地域人材や保護者を巻き込んだ指導者の確保と、様々な年代を対象とした活動の整備は単独の地域クラブ活動では容易ではなく、既に存在する他地域クラブ活動の取組を参考とする必要がある。足がかりとしてボランティアで指導をするにあたって、これらは留意すべき点であった。活動拠点である太田市の太田市陸上競技協会（以下、太田陸協）や、近隣の様々な地域クラブ活動と相談しながら環境整備を進めた。令和6年12月より埼玉県陸上競技地域クラブ活動「友誠館陸上クラブ」と協力した。以前からの監督・コーチとのつながりを活かし、休日に合同練習をすることから始めた。太田陸協からは活動の際に助言を得ている。地域クラブ活動や地域との連携により、邑楽倶楽部の活動環境を整えることができた。友誠館陸上クラブが特定の陸上競技場で練習することが少ないことから、友誠館陸上クラブの中で、長距離以外の種目を専門とする選手とコーチにとっては、練習拠点となる太田陸上競技場がある邑楽倶楽部との合同練習は場所の確保にメリットがあった。

邑楽倶楽部の活動により、以下のような成果を感じている。

- ・地域人材や保護者を巻き込んだ持続可能な部活動にむけた指導者の確保

太田陸協や友誠館陸上クラブの協力があり、経験豊富で公認コーチ資格を保有するコーチ陣が邑楽倶楽部で指導をしている。邑楽中にとっても、今後人事異動に伴って顧問が変わり、専門外の教員が顧問を担当することがあっても、邑楽倶楽部に参加することで陸上競技の指導者の確保に困ることがない可能性がある。

- ・様々な年代を対象とした活動

邑楽倶楽部では、参加対象を小学生から社会人としている。現在、友誠館陸上クラブ所属選手以外にも、町内や近隣郡市の小学生から社会人が練習に参加しており、世代を超えて関わり合うことができる。

3 持続可能な部活動の環境整備に向けた今後の課題

(1) 邑楽町と学校の取組について

部活動検討委員会を中心として、休日の部活動の地域展開や、拠点校部活動の整備に向けて、今後も続けて取り組んでいく必要がある。

(2) 教員の取組について

主体となって地域クラブ活動に関わる上で、以下のようなことが今後の課題である。

① 地域クラブ活動との連携の強化

学校部活動と地域クラブ活動が連携を続け、活動方針や活動状況、スケジュール等の共通理解を図り、学校を含めた地域全体で生徒の望ましい成長を保障することを、今後も継続していく必要がある。さらに今後は、ボランティアで指導を希望する教員や、県の地域人材バンクへの登録制度などを利用して、兼職兼業で地域クラブ活動での指導を希望する教員が増えることが期待される。

② 地域クラブ活動の足がかりとなる活動

邑楽倶楽部は、今後も継続して地域人材や保護者を巻き込み持続可能な活動としていく必要がある。現在は私が中心となりボランティアで活動しているが、現行のままであると、部活動指導や職員会議など教員としての仕事全般が終わった後に、競技場まで移動して指導を行うことが多い。身体的に余裕はないため、人手が増えることでより健全な活動となるであろう。

(3) 兼職兼業制度の整備について

各競技で拠点校部活動や地域クラブ活動での指導を考える教諭が全国的にみられるであろう。子供たちが活躍する機会や場を維持していくためにも、ボランティアでの指導だけでなく、教員が兼職兼業制度を利用して指導できる環境の整備が進められている。教員が勤務の時間外に地域クラブ活動で有償指導を希望する際、その手順等について、教職員の理解を進める必要がある。

4 まとめ

本研究では、持続可能な部活動の環境整備に向け、部活動と地域の関わり方について考察した。

邑楽町と学校は、休日の部活動の地域展開や、拠点校部活動の整備に向けた取組を進めている。また、生徒が関心のある活動を主体的に選択し、取り組めるようにしている。

教員が主体となって関わる地域クラブ活動について、地域クラブ活動と連携しながら部活動指導を行うことは、部員に対する理解が深まり、指導がしやすくなる効果を感じた。また、部員にとっても、部活動と地域クラブ活動が同一歩調で声かけできるため「安心して活動に参加できるようになった」「練習量をコントロールしてくれるので、けががなくなった」などの反応があった。邑楽倶楽部のボランティア活動は、地域クラブ活動の足がかりとなることを目指し、指導している。今後も継続して地域人材や保護者を巻き込み持続可能な活動としていくことが必要である。

兵庫県部活動地域展開等における連携

～ 部活動地域展開等における課題解決にむけて ～

兵庫県中学校体育連盟 理事長

兵庫県教育委員会 主任指導主事兼主幹（部活動改革担当）

鵜野 敬二郎

－提案趣旨－

改革推進期間が終了する令和8年度より兵庫県内の神戸市等をはじめ「平日・休日ともに地域クラブ活動へ展開」や「休日から地域クラブ活動へ展開」が順次進んでいくなか、兵庫県中学校体育連盟として直面する大会運営のあり方や組織体制等の課題に対して、県内で取り組まれた実証事業における「連携」事例等を参考に課題解決について検証・考察を行った。

1. はじめに

兵庫県は日本の近畿地方に位置し、北は日本海、南は瀬戸内海に面する広い県です。地域によって気候が異なっており、北部の但馬地方は冬に雪が多く、南部の播磨・阪神・淡路地方は温暖で過ごしやすい気候です。淡路島も兵庫県に属し、豊かな自然と農産物に恵まれています。

歴史的には、古代から複数の旧国が存在し、それぞれが独自の文化を育んできました。姫路城はその代表で、世界文化遺産にも登録されています。神戸港の開港以降は国際都市として発展し、外国文化の影響を受けた街並みも見られます。

兵庫県は伝統工芸や食文化も豊かで、神戸牛や明石の海産物などが有名です。都市と自然が調和した兵庫県は、「日本の縮図」とも呼ばれ、多様な魅力を持つ地域です。

県内の中学校では、近年、部活動の在り方が大きく変わりつつあります。従来は学校の教員が顧問となり、校内で活動する形式が一般的でしたが、少子化や教員の負担増加、生徒の多様なニーズに対応するため、地域クラブ活動への展開等が進められています。

令和7年度の全国中学校総合体育大会においては、陸上競技において播磨町の地域クラブチーム「播磨 AC」の選手が砲丸投げで優勝、6人制ホッケーにおいて丹波篠山市の地域クラブチーム「HC HYOGO HEARTS」が優勝など複数の競技で優秀な成績を収めました。

令和8年度からは神戸市では、「KOBE◆KATSU（コベカツ）」という地域クラブ活動に全面移行する予定で、生徒は校区を越えて自由に活動を選べるようになり、いままでの部活動という枠組みに捉われないeスポーツなど新しい種目にも参加も可能となり、活動の幅が広がっています。

兵庫県全体としてでも、学校部活動の地域展開等に伴い、中学校体育連盟の組織及び大会運営等の事業について変革が求められる状況となっています。

2. 兵庫県の現状と課題

兵庫県部活動地域移行推進計画（R6.7策定）を策定し、地域展開等を推進している。

【目的】

中学生がスポーツや文化芸術活動に継続して親しむことのできる環境づくり

【目標】

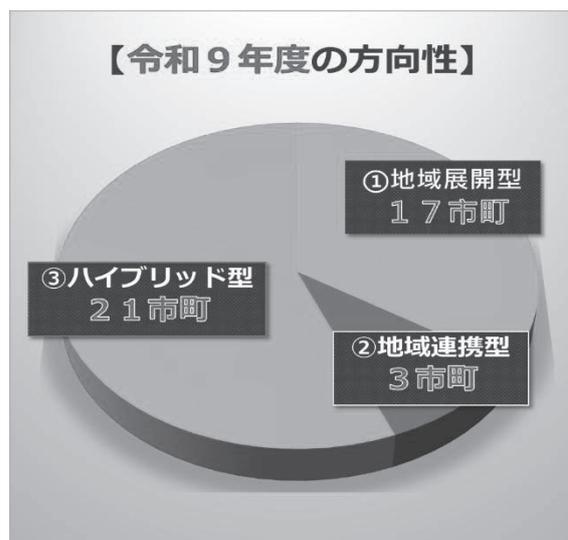
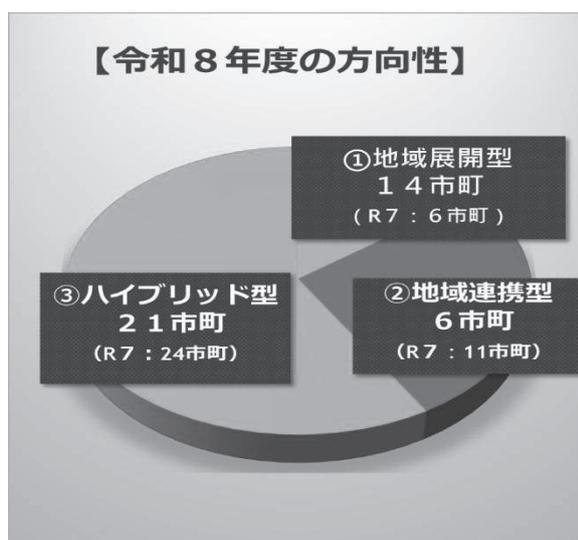
令和5（2023）年度から令和7（2025）年度中に、本県各市町組合においては個々の課題をふまえながら円滑で段階的な地域移行の検討を進めることとし、令和8（2026）年度から以下のとおり実施することを目標とします。

- 各市町組合は、地域・学校の実情に応じて「地域移行型」「地域連携型」「地域移行・地域連携ハイブリッド型」の3つの実施型を参考にしながら、中学生の持続可能な活動機会の確保をめざします。
- 各市町組合は、休日の部活動において、兼職兼業等により指導を望む場合を除き、原則、教職員が従事しなくてもよい環境づくりをめざします。

県内公立中学校運動部・文化部状況調査まとめより(R7.9.1)

県内全中学校	部活動数(R6)	割合(R6)
地域展開	425(328)	12%(9%)
地域連携	644(470)	18%(13%)
現状維持	2,529(2,791)	70%(78%)

県内市町組合の地域展開等の方向性(41市町組合)



県内の部活動地域展開(移行)の実施予定

自治体名	移行時期	形態
神戸市	2026年9月	完全移行
尼崎市	27年度以降	完全移行
西宮市	2026年9月	完全移行
芦屋市	2026年8月	完全移行
伊丹市	26年度中	完全移行
宝塚市	2026年9月	完全移行
川西市	24年度から実施	完全移行
三田市	2026年8月	完全移行
猪名川町	2026年4月	完全移行
明石市	27年度以降	完全移行
加古川市	2027年8月	完全移行
高砂市	2028年4月	完全移行
稲美町	27年度以降	完全移行
播磨町	25年度から実施	休日から移行
西脇市	27年度内	休日から移行
三木市	2028年1月	完全移行
小野市	27年度以降	完全移行
加西市	27年度以降	未定
加東市	28年夏	完全移行
多可町	26年度内	完全移行
姫路市	2026年9月	休日から移行

神河町	27年度以降	休日から移行
市川町	未定	休日から移行
福崎町	方針などを策定中	休日から移行
相生市	27年度以降	休日から移行
たつの市	未定	未定
赤穂市	26年度中	完全移行
宍粟市	27年度以降	完全移行
太子町	未定	未定
上郡町	方針などを策定中	未定
佐用町	27年度以降	未定
豊岡市	26年度内	休日から移行
養父市	2028年10月	完全移行
朝来市	方針などを策定中	未定
香美町	方針などを策定中	未定
新温泉町	27年度以降	完全移行
丹波篠山市	2026年8月	休日から移行
丹波市	2026年9月	休日から移行
洲本市	2027年4月	完全移行
淡路市	26年夏	休日から移行
南あわじ市	28年2学期	完全移行

(R7.10.3 神戸新聞朝刊より転載)

3. 兵庫県内の部活動地域移行国実証事業における様々な連携

(1) 県・市町教育委員会等との連携(協議会等への委員派遣)

県教育委員会が主催し、県の方向性等を審議する「県部活動地域移行推進委員会」に県中体連会長が委員となり、現場や生徒の状況や中体連の意見反映を行うなどの連携を行うとともに、市町担当部局等の地域展開等の推進状況や方向性を踏まえ、県中体連大会における地域クラブ参加特例を協議し、「市町が認定等を行った地域クラブ活動の大会参加を認める」など学校部活動の発展と地域展開等の推進の両立を図るため、行政と県中体連との連携・協働が必要不可欠となっている。

また、今後、大会役員への教員派遣等について、出張・職務専念義務免除等の取扱いを県中体連として関係市町教育委員会に求めるなどの協議を実施することなど、今後の展望と方向性を持った行政との連携体制の構築が重要となる。

(2) スポーツ関連団体等との連携(大会運営を担う指導者確保や活動場所の確保)

令和6年度実証事業においては指導者確保や活動場所の確保のため様々な関係団体等の連携による課題解決が実証された。特に稲美町においては指導者兼理学療法士やスポーツトレーナーなど安全安心な練習環境づくりにも取り組み、成果のある実証事業となった。

【主な連携事例】

稲美町：医療関係者（理学療法士・スポーツトレーナー）

播磨町：高等学校（県立高等学校及び県立特別支援学校）

尼崎市：財団（公益財団法人尼崎市スポーツ振興事業団）

明石市：競技連盟（明石市剣道連盟）

その他にも、現役教員の兼職兼業、現役大学選手の指導者派遣、プロスポーツチームからの指導者派遣など様々な連携が実施された。今後は大会運営等を担ってくれる各競技のスポーツ協会・連盟との連携を深めるとともに保護者等のサポートスタッフ等を検討する市町も出てきている。

（3） 財団や民間企業等との連携について（大会運営の支援や委託及び財源確保）

今後、大会運営においては運営役員等が教員では担えなくなる方向性が予見される。兵庫県中体連としては、令和9年度に県内で開催される近畿大会（20種目）・全国中学校総体（3種目）の開催にむけて大会運営のスリム化も今後検討していかねばならない。

従前、教員が担ってきた大会役員・補助役員等を見直し、最少人数で最大限の効果を発揮できる役員配置等を検証する必要がある。

【今後、検討すべき大会役員等】

- ・大会審判
- ・会場設営
- ・会場案内
- ・その他

以上の役員においては、業務を担う関係団体や民間企業等を活用することが予見され、それに対する経費等の増大が課題となってくる。

大会経費増大に対しては、地域の教育やスポーツ活動を支援する財団の寄附や民間企業等との業務連携等を増やすことも大会成功のための重要な要素となっていく。

市町においては、部活動地域展開等における財源確保のため「ふるさと納税」や「クラウドファンディング」による運営資金の確保等を行っている。

4. まとめ

県中体連として、県・市町地域展開担当部局との連携を密にし、現状把握（各市町の部活動地域展開等の推進状況）を行ったうえ、「部活動であれ、地域クラブ活動の生徒であっても県内中学校に在籍するすべての中学生のさらなる運動機会の確保」のため、先に示したあらゆる関係団体や民間企業等との連携による大会及び健全育成の場の充実を検討・模索し続けていかなければならない。

今後も、兵庫県中学校体育連盟は変革の時代のなかで、従前の目標である「体育大会の開催」だけではない「兵庫県内の中学校における体育活動の普及と振興を図る。」などの価値をさらに見出し、必要不可欠な連盟として目の前にいる生徒の為に尽力し続けていく。

運動部活動の現状と今後の課題

～地域移行（展開）の現状とその課題について～

三重県中学校体育連盟 研究部長（常務理事）

鈴鹿市立平田野中学校 水谷 悠貴

<提案趣旨>

三重県では、地域クラブの全国大会に合わせて令和5年度より三重県中学校総合体育大会の参加を認めている。令和7年度は74の地域クラブ活動が参加し、自治体が連携・協力・主体となるクラブも参加した。令和8年度には、県北部を中心に複数の自治体が休日の部活動を夏以降に地域移行（展開）をしているため、大会参加についても地域クラブ活動での参加が増える見込みである。そこで、現在モデル事業として行われている事例をもとに、現状と課題を把握することで、今後の三重県における中体連の地域連携の役割を検討したい。

1 はじめに

(1) 三重県について

三重県は、日本のほぼ中央に位置し、伊勢湾と太平洋に面した南北に細長い県です。古くから「お伊勢さん」として親しまれる伊勢神宮を中心に栄え、日本の歴史と文化を色濃く残しています。

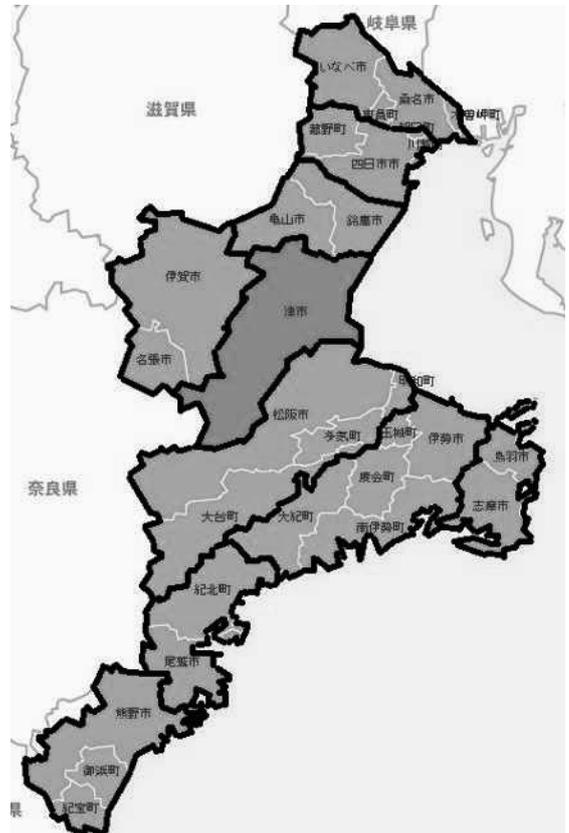
三重県を語る上で欠かせないのが、日本人の心のふるさととも言われる伊勢神宮です。毎年多くの人が「お伊勢参り」に訪れ、その厳かで清らかな雰囲気に触れています。また、ユネスコの世界遺産にも登録された熊野古道伊勢路は、巡礼の道として多くの歴史を刻んできました。忍者の里として知られる伊賀では、今もその文化が息づいており、まるで時代劇の世界に迷い込んだかのような体験ができます。

南北に長い地形は、多様な自然景観を生み出しています。リアス式海岸が美しい伊勢志摩国立公園では、真珠の養殖が盛んで、真珠島や海女文化が今も残っています。また、温暖な気候と豊かな水に恵まれ、食のブランド王国としても有名です。日本三大和牛のひとつ松阪牛、ぷりぷりの食感の伊勢海老、そしてアワビなど、海と山の幸が豊富に楽しめます。

四日市市を中心とする工業地帯は、日本の経済を支える重要な役割を担っています。また、エンターテインメント施設も充実しており、F1グランプリの開催地として知られる鈴鹿サーキットや、国内最大級のテーマパークナガシマスパーランドは、子どもから大人まで楽しめる人気スポットです。

(2) 三重県中体連について

三重県中学校体育連盟は10支部中学校体育連盟（桑員・三

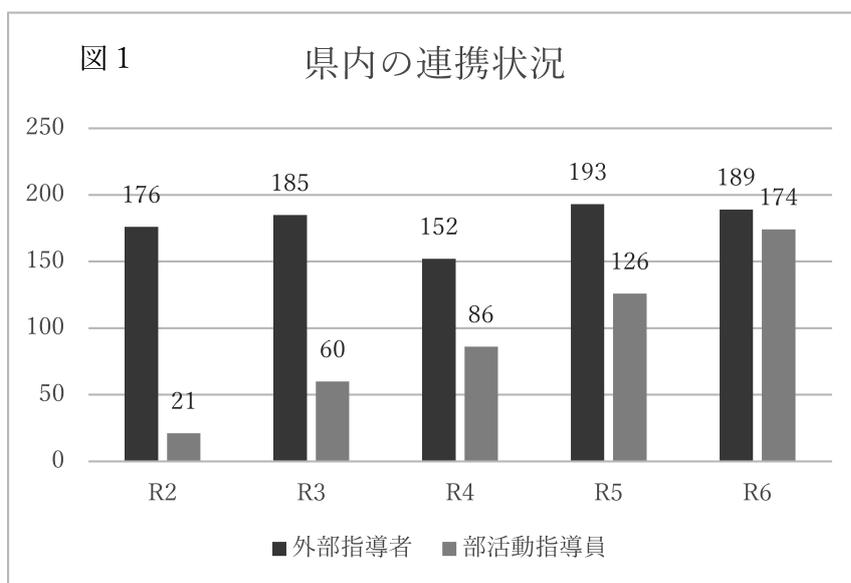


160校をもって組織しています。三重県中学校総合体育大会は、各支部予選を勝ち抜いたチーム・団体によって東海ブロック大会の出場権を争って7月下旬より開催しています。本大会では県教委育委員会の令和5年度通知によりWBGT（暑さ指数）を厳密に運用し、例外なく指数31を超える場合は大会を中止、延期することとしています。

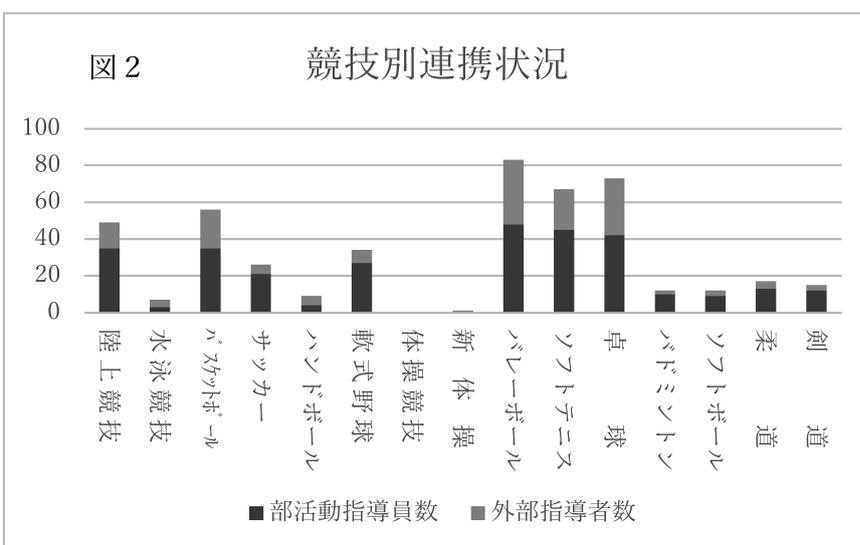
本県の運動部活動加入生徒数は令和元年度の34,279人（加入率71.0%）から令和7年度29,817人（同64.4%）と減少傾向が続いています。複数校合同チームは、令和元年度13チームから令和7年度57チーム（拠点校を含む）となり、単独校での参加が難しくなってきました。生徒数においても減少傾向は顕著で、県内の令和6年には出生数が1万人を割り込んでおり、さらなる生徒数減少が見込まれ、学校部活動を取り巻く環境はさらに厳しさを増すことが予想されています。

2 県内の連携状況について

県内の地域との連携状況は、令和2年度からの比較（図1）では、部活動指導員は21名と外部指導者は176名でした。令和6年度では、部活動指導員は174名と外部指導者は189名となっています。比較すると部活動指導員は153名の増加、外部指導者は13名の増加ですが、経年の変化をみると部活動指導員は右肩上がり、外部指導者は横ばいと見て取れます。総数として学校部活動に関わる地域の指導者は増加傾向となっています。



続いて図2は令和7年度競技別の地域連携状況を示しています。競技ごとにばらつきが多くなっていますが部活動設置数からみると全ての競技が3割から5割の部活動に地域の指導者がいる状況です。ただし、支部別にみると県内最大都市の四日市を含む三泗地区が合計137人の地域連携人数（部活動指導員+外部指導者）ですが、県南部尾鷲市周辺の尾北支部は8名の地域連携人数で支部間の格差が大きくなっています。



県内の状況を踏まえると、都市部には連携の基礎となる人的資源があることが見て取れますが、都市部以外では連携を行う人的資源が少ないことがわかりました。また、県内全地域で生徒数減少により部活動の休部・廃部のみならず、学校の統廃合も進んでおり地域連携だけでは活動の保証ができない状況も考えられます。

県内の状況を踏まえると、都市部には連携の基礎となる人的資源があることが見て取れますが、都市部以外では連携を行う人的資源が少ないことがわかりました。また、県内全地域で生徒数減少により部活動の休部・廃部のみならず、学校の統廃合も進んでおり地域連携だけでは活動の保証ができない状況も考えられます。

3 地域連携の取り組みについて

(1) 四日市市（三泗支部）の取り組みについて

① 市内の現状について

市内の22中学校には約200の運動部活動がありますが、少子化に伴う生徒数・教職員数の減少により、令和元年度から約10の部活動が休廃部となっています。また、複数の教員による顧問体制の維持が困難になるとともに生徒数の減少によって単独校での試合参加が難しく、合同チームでの参加が増えています。令和6年度実施のアンケートで、部活動顧問の半分以上が競技経験がなく、技術指導に自信がないと回答しています。

② 取り組み状況

令和6年度は市教育委員会が4つ市内総合型地域スポーツクラブと5つの競技団体（剣道・軟式野球・ハンドボール・柔道・硬式テニス）で実証事業を行いました。活動は原則休日に行われ月1～4回の頻度で行いました。

③ 活動に対しての関係者アンケート

参加生徒 ・今年度あなたが参加した地域クラブ活動に、「満足」していますか。

・・・・・・「満足」66%「どちらかという満足」24%

・来年度も、地域クラブ活動に参加したいですか。

・・・・・・「参加したい」68%「どちらかという参加したい」28%

保護者 ・今年度お子様が参加した地域クラブ活動に、保護者として「満足」していますか。

・・・・・・「満足」39%「どちらかという満足」51%

・来年度も、地域クラブ活動に参加させたいですか。

・・・・・・「参加させたい」58%「どちらかという参加させたい」38%

④ 成果と課題

本事業に参加した生徒や保護者からは活動内容への肯定的なアンケート結果が得られました。実際に指導や運営に関わる人からは、関係機関との連携や指導者の量の確保などの課題も挙げられています。市内広域での実施については先行している競技では複数拠点での指導ができましたが、今後指導者の量の確保が進まない場合は、拠点を減らさざるを得ない状況も考えられます。費用負担についても持続可能な仕組みづくりが必要なことから受益者負担や公的資金のバランスについても慎重に議論を進める必要があるとされています。

(2) 大台町（松多支部）の取り組みについて

① 町内の現状について

町内には2つの中学校があり、それぞれ149名、32名の生徒数です。年々生徒数が減少傾向である中学校で部活動を存続させていくのは困難であり、廃止となる部活動も少なくありません。大台町部活動地域移行推進協議会を設置し、現在、実施している実証事業を行い、課題、問題点を洗い出しながら、他の種目の地域移行についても検討しています。

② 取り組み状況

令和3年度より町教育委員会が町スポーツ協会に受け入れ団体の確保を依頼しました。町ソフトテニス協会の協力のもと実証事業を行いました。令和6年度の参加会費は年間1,000円とし、活動は月6回程度行い、学校施設を使用しました。

③ 活動に対しての教職員アンケート

- ・特に大会参加の際は、大会役員等で忙しいため地域指導者が生徒の引率を引き受けていただけるとありがたい。
- ・教諭としては、放課後の時間は部活動指導ではなく、翌日の授業準備などに充てるのが望ましい。
- ・ほとんどの生徒が社会体育にも参加していることもあり、移行に関してはスムーズに行える部活動が多いのではないかと。
- ・2校の中学校間の距離が少し遠いため、合同練習の環境を整えるのが困難。
- ・社会体育への参加は、送迎に関して保護者への負担が大きい。
- ・担当顧問に経験や知識が無いため、知識が豊富な専門の指導者に指導してもらった方が生徒にとっては良いのではないかと。
- ・やる気のある生徒は地域クラブ、楽しみたいという生徒は部活動というすみわけもありではないかと。

④ 成果と課題

関係機関との連携という面では指導者が学校関係者であったため、スムーズに行うことができました。また、ソフトテニスにおいては実施に向けて既存の組織（大台町ソフトテニス協会）があり、大きな課題やトラブルもなく行うことができました。今後町内で廃止となる部活動があり、その移行に向けても検討を進める必要があります。団体競技においてはチームを存続するのは困難であり、さらに広域的な取り組みを進める場が必要になります。今後保護者負担が大きくなることが予想されるため自治体が支援できる体制を検討する必要があります。

4 今後の課題と中体連にできることについて

本県では、上記のように複数の自治体が部活動において地域連携や地域移行の取り組みを進めています。県内の都市部とその他の地域では、使うことのできる人・施設・資金は大きく違い、全体としても足りていないのが現状です。各市町はそれぞれの状況の中で、地域クラブ活動の新設や、既存組織の活用、競技団体依頼、拠点校部活動の推進等、様々な取り組みが進められています。現在、課題は多岐にわたり、指導者の確保やその質の保証、保護者負担の在り方、生徒数の減少など様々あります。中体連としての最大の課題は、中学生が運動に出会い選択できる場の確保とその活動の保証に尽きます。そのため地域移行においては成功例が示されることが多いのですが、失敗をなくすことこそ、生徒の活動場所の確保につながると考えます。国や自治体には、うまくいかなかったことや課題の共有もぜひ進めて、全国すべての中学生の活動場の確保をしてほしいと考えます。

部活動が地域に移行しても、学校部活動を続けるとしても、ほかの在り方であったとしても、中体連は生徒の活動の機会を保証する必要があると考えます。三重県中体連として県内の中学生が活躍できる場を守り続けるため、地域において出会いと活動の場を提示することを、自治体と協力しながら始める責任があると感じています。

〈引用・参考〉「令和7年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業」事務局

令和6年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業成果報告書

「三重県四日市市」<https://activitycasestudy.jp/pdf/R6/242021.pdf>（参照 2025-10-6）

「三重県大台町」<https://activitycasestudy.jp/pdf/R6/244431.pdf>（参照 2025-10-06）